

安国良一氏「錢からみた近世初期貨幣史の課題」
に対するコメント

下関市立大学 櫻木 晋一

(はじめに・I)

中世社会における流通貨幣には地域性があり、考古資料からみても「東の永楽、西の鏹」のみならず、東北と九州は洪武・無文錢と言う図式が明らかになってきた。日本を大別すると、四つの地域に分かれているように思える。関東・関西の辺境地として、東北・九州があるという構図に見える。しかし、諸外国との交易地という点で九州はその影響が強く、九州=東北でもなく、ことは単純ではない。近年の研究進展により、さらに地域的細分が可能となりつつあり、まずは領国ごとの流通錢貨の実態を考古資料から明らかにする必要があると考えている。文献史料からも、どの地域に対して効力のある撰錢令であるのかといったことを確定させる必要がある。我々は、先学の領国貨幣研究をさらに深化させなければならぬ。

しかし今回の発表内容は、近世に向かって貨幣統合の段階やその意味をどう捉えるかという問題である。近世に至っても貨幣の地域性は残存しているが、これを覆う形で通貨統合がなされたのは事実であり、この段階を明確に捉える作業が重要であることは間違いのない。本研究会における一連の撰錢に関するテーマの中で、今回は撰錢令としては最終末期である17世紀初期のものを取り扱っており、安国氏は「近世初期の撰錢令をめぐる」(『越境する貨幣』青木書店1999)において、錢貨が近世初期に果たした機能を積極的に再評価し、撰錢令や駄賃規定などの錢貨政策が軍事・交通政策の一環であることを明らかにした。また、錢貨は交通路における支払手段として機能していることを指摘している。

今回評者に与えられた使命は、考古資料から撰錢の実態を探っていくことであり、若干の出土事例を紹介しながら、その任を果たしたいと思う。

◇資料④の表中 真珠庵慶長6年などは空白だが、著書P151の表中にはここに6.6とあり、これを含め8箇所の数値を今回削除してある理由は?

(II)

京錢=鏹(ビタ)錢=古錢=不良錢を排除した北宋錢主体の錢貨という認識。

錢貨の呼称問題

(製作地)

中国公鑄錢=制錢・本錢 ⇔ 中国私鑄錢(鑄写し・無文錢?)

日本で鑄造された模鑄錢 1.中国錢の鑄写し
2.無文錢
3.新規の錢銘(慶長通宝・平安通宝・叶手元祐・加治木洪武など)

(状態)

精銭・良銭・善銭

⇔

悪銭

必ずしも、模鑄銭=悪銭ではない。

現実問題として、出土銭を制銭と私鑄銭・模鑄銭に区別することはかなり難しい。しかし、実物の銭貨を見て、カケやワレという破損系は明確に判断できるし、厚みが薄いものや文字のない無文銭も区別が容易である。文字の不明瞭なものについては、銭貨そのものの遺存状態が悪い場合、元々文字が不鮮明であったのか、土中で劣化したためそのように見えるのか判断しづらい場合がある。この判別の難しさが、今後も研究のネックになることは間違いない。

元和2年の排除すべき六銭 大かけ・われ銭・かたなし・ころ銭・新銭・なまり銭

このことから、少くも銭貨が欠けていても流通していたことが分かる。それほど銭貨は不足していると考えられる。この六銭は容易に外見で判別できるはずである。大かけ・われ銭は欠陥品、なまり銭も灰色で小さく判別が容易である。かたなしとは鑄写しによって郭や輪の盛り上がりのないものであろう。無文銭を含む可能性もある。ころ銭とは一銭洪武のように小さく厚めのもの、あるいは小さめのものを指していると考えられる。ころ銭=洪武通宝と考えられなくもないが、この時期は銭銘で撰銭をする段階ではなくなっていると考えられる。銭貨不足の中、洪武通宝でも銭様の整ったものは流通しているはずである。新銭の判断が難しい。新しいか古いかの判断基準のひとつは金属の発色だが、輝いているものを排除したというより、その中でも鑄上りの悪いものだけをはいと考えるべきであろう。輝くようなものは嫌われていると想像できるが、ただ輝きだけの問題であれば時が解決する。輝きを失っていても近年作った粗悪貨という意味ではないだろうか。そうすると、鑄写し銭・無文銭の可能性もある。

考古資料としての銭貨数は増加しており、現在出土している銭貨に中世当時流通していた銭貨は必ず含まれていると考える。出土銭貨はその土地の特色を必ず反映している部分があるので、すでに遺跡から出土している銭貨からこれらの悪銭を同定していくことが可能だと考えている。そのためには、丁寧に1枚1枚の銭貨を鑑定し、今後利用可能な形でデータ化しなければならない。シングルファインド(個別発見貨)を資料化していく作業が、今後は重要になると考えている。

◇東北の秋田は無文銭の流通圏であると考えられる。従って、並銭は無文銭であるとの推測が可能で、これらは京銭より質がかなり劣る悪銭であり、かつ領国銀は品位が高いため、このような結果(1/10)になってもおかしくない。

東北地方の無文銭に関する資料(東北中世考古学会編『中世の出土模鑄銭』高志書院 2001)
○青森県根城出土銭 1195 枚 無文銭と模鑄銭が全体の 60%を占めている。洪武は 114 枚、永楽は 139 枚のうち 60%と 70%が模鑄銭である。出土状況から見て、輪銭は通貨ではなく、廃棄行為に使用する貨幣という見解をとっている。

○青森県浪岡城の一括出土銭(15世紀前半、5971枚) 無文銭378枚・判読不能銭276枚を合わせると、全体の10.95%となる。SP10から洪武通宝444枚、永楽通宝6枚、無文銭647枚が一括出土。15世紀代に、無文銭が一括出土銭の中にかかなりの量入ってくる。16世紀後半以降と考えられる地鎮遺構から、無文銭3枚と輪銭8枚が出土。輪銭は16世紀になってから出現、祭祀的目的のものと推定されている。

○秋田県鹿角地方 平山城である当麻館では54枚中無文銭11枚、判読不能15枚が出土。平山城である新斗米館跡では、240枚中無文銭が222枚出土。また、B7グリッドI層下位から糞状の紐に通した無文銭の緞銭185枚が出土している。無文銭と輪銭の割合は68:152となっている。(数値は合わないが輪銭の方が多い)この地方では、無文銭が出土する遺跡とまったく出土しない遺跡とがある。

○岩手県 北上川流域で永楽通宝、県北部馬淵川流域で洪武通宝の出土例が多い。無文銭は全県から670枚が出土しており、そのうち632枚(90%)が馬淵川流域を中心とする内陸に偏って出土している。無文銭は全県から出土するが、輪銭は県北に限られて出土。軽米町大鳥I遺跡の墓塚から93枚の緞銭が出土しており、洪武通宝が6枚、それ以外は無文銭で輪銭が多い。洪武通宝・無文銭・輪銭の金属組成はCu・Sn・Pb系で、堺で鑄造されていたCuないしはCu・Pb系とは異なっている。◇このことは中国銭を鑄潰して模鑄銭を作っていることと、模鑄銭の鑄造地が複数存在することを示していると考えられる。

無文銭には明銭の洪武通宝・永楽通宝を伴う場合が、27例中22例(80%)と多い。県北になるほど出土銭貨に占める無文銭の割合が高い。永楽通宝と輪銭の組み合わせはない。出土状況から無文銭と洪武通宝は密接に関わっていると推定できる。無文銭の出現は16世紀であると考えられる。無文銭だけの緞が存在しないことから、他の銭銘を有する銭貨と一緒に使用されていたと考えられる。出土地・出土遺構からみると、模鑄銭は賽銭として使用された可能性がある。

小倉城や小倉城下町の調査は継続して行われており、断片的にはあるが出土銭貨から近世初期の流通貨幣を復元できる。ここからは薄めのものや鉛分の多い銭貨が出土している事実があり、これらは近世初期の銭貨である可能性が高い。これらの銭銘は祥符や天禧・洪武が多く、近年明らかになりつつある16世紀中ごろから模鑄の際に銭種を選ぶようになることとも一致する。細川家鑄造の貨幣の特定はできていないが、これらのいずれかである可能性はある。しかし、黒田明伸氏はこれらを福建で作られたものと想定している。(「16・17世紀環シナ海経済と銭貨流通」『越境する貨幣』1999)

◇より精銭である京銭が、なぜ小倉では嫌われるのだろうか。永楽が渡来初期に嫌われたのと同様に銭貨の質の問題ではなく、現在流通しているものと同等のものでないということで選別されるのだろうか。安国氏資料番号⑤は寛永9年の記事であり、細川の鑄銭事業は寛永元年から同6年であると考えられる。櫻木別添史料から、寛永年間の小倉藩では、京銭と新銭の存在を確認できる。寛永4年2月、京銭：新銭の価値は2：1?京銭は飛脚の給与に使われていることが注目される。この点では安国氏が指摘している交通との関連を見て取れる。

◇「サカモト」がアユタヤで最良銭として認識されていたという 1634 年の記事は興味深い。坂本が鑄型土(マネ)の産地であったことと、1636 年以降古寛永通宝の鑄造地であったことから、寛永通宝以前に坂本で銭貨が鑄造されていたことは大いにあり得る。海外で好まれているということから、良質の銭貨であったと考えてよいだろう。しかし、記述にあるように寛永通宝鑄造以前のことであるから、銭名が寛永通宝であるとは考えにくい。京銭をサカモトで鑄造していたとすると、これらが新銭であるという事実から、先般の京銭理解のままでは矛盾が生じる。従って、サカモトを京銭の鑄造地と推測するためには、精銭範疇に入る新銭が存在すると考えなければならない。日本町ホイアンの調査で日本鑄造の長崎元豊が出土しているという事実がある。万治年間に鑄造されたといわれている長崎銭ではあるが、これとて確定的な証拠はなく、長崎元豊の時期を引き上げることも可能ではないかと考える。

◇江戸時代を通じて豆州では、「永」が 4 倍価値の名目単位として残存し続けたということか。

◇近江が京銭の供給地であるとの考えは斬新であり、魅力的である。新銭でも状態の良い銭貨を排除しないという仮定が成り立てば、慶長通宝・叶手元祐等をこれに充てることも可能だと思う。しかし、量的には北宋銭のコピーだと考えないと絶対量が少ないように思える。アユタヤでサカモトと識別できていたのだから、金属色に輝いた状態で流通していたという状況を想定すれば、北宋銭のコピーでもおかしくない。発色が古びていれば、文字による選別が可能であったということであろう。

◇安国氏の「京銭による銭貨統一段階の設定」に異論はない。鈴木公雄座長も十年ほど前に、慶長 14 年の金銀銭相場の規定に関して、「徳川が全国政権になるためには、関東で機軸通貨化している永楽銭ではなく、絶対量で圧倒的に多い北宋銭を全国通貨の基軸に据えざるをえない。そのために出されたのがこの法令だ。」と言われたことが思い出される。つまり、京銭による銭貨統一という認識は座長らも萌芽的に持っていたが、安国氏が史料よる裏づけをもって明確に論文の中で主張したと理解している。

(Ⅲ・おわりに)

カロンの記述は、日本全国の銭貨が地域によって違っているとの指摘であり、まさに我々の認識通りの内容である。カシーは黒田論文の鉛銭カイシィの使用法と同一であろうか。この文章を読む限り、我々が銭貨と認識しているものを指しているように思える。安国氏の「対外貿易の制限と連動した内外貨幣の区分、偽造防止と関連した金属流通と職人の統制、そして国家意識が寛永通宝発行の直接的動機である」との結論は明快である。大いに賛同できる。

貨幣が不足すると模鑄銭などが供給され、その割合が増加すると考えられる。模鑄銭が増えると、これらは制銭より薄く粗悪なため、劣化が速く、撰銭の対象になりやすい。撰

銭とは基本的には、形状などが劣化している悪銭をはじくことであり、模鑄銭=悪銭ではない。考古資料から撰銭の実態を探ることは、極めて難しい作業ではあるが、模鑄銭をいわゆる備蓄銭の中に見出すことも有効な手段であると考えられる。試みとして、備蓄銭に制銭・模鑄銭がどの程度の割合で含まれているか確認してみることにする。撰銭がさかんに起こっていた時期は15世紀半ば以降であり、その時期の備蓄銭は、鈴木区分で第5期以降である。8期などは、少量しか存在しない最新銭での時期決定を行っており、時期の即断は危険である。幸い、備蓄銭中に模鑄銭の有無を永井久美男氏が調べており(「模鑄銭の全国的様相」『中世の模鑄銭』高志書院2001)、これを紹介する。(第1表)

模鑄銭は時期を問わず、1期から混入している。模鑄銭の割合を記したものは十数例存在し、時期が下がるに従い、その割合が増えるという傾向を読み取ることができる。しかし、数例を除き大半が制銭であり、備蓄銭は精銭を集めたものであると考えてよい。

精銭を備蓄していると捉えれば、堺の出土例も可能な限り精銭を集めているはずである。その中で、堺環濠都市遺跡 SKT448-3 地点一括出土銭が17世紀初頭の流通銭貨の構成を示している。慶長通宝を最新銭とし、6325枚。埋蔵時期は1615年頃と推定されている。分類調査を実施した4851枚のうち日本鑄のものが3932枚(81%)。非常に高い割合で模鑄銭が流通していたことを確認できる。このことから、模鑄銭であっても精銭であるという認識があった可能性が高い。

○堺環濠都市遺跡・SKT794 地点

平成12年度の調査で、各層・各面出土の永楽通宝4枚、皇宋通宝3枚、祥符元宝・至和元宝・治平元宝・元豊通宝・元祐通宝・聖宋元宝・政和通宝各1枚の計14枚が出土。嶋谷和彦氏の実見では永楽通宝以外の大半は模鑄銭。

○大阪城跡 大阪府文化財調査センター『大阪城址Ⅱ』(2002)

豊臣氏大阪城段階で45種833枚の銭貨が出土している。その上位銭種は、①洪武通宝②元豊通宝66枚③無文銭55枚④皇宋通宝47枚⑤開元通宝43枚となっている。無文銭7点の蛍光X線分析結果は、3点が青銅銭(Cu-Sn-Pb系)、4点が(Cu-Pb系)である。

○大阪城下町跡 大阪市文化財協会『大阪市埋蔵文化財発掘調査報告—1999・2000年度—』(2002) 平成11年度調査 OJ997 地点

第5b層が大阪冬の陣(1614)の焼土層であるが、17世紀初頭の第5c層、17世紀前半の第5a層から出土した29枚の銭貨はすべて模鑄銭とされており、寛永通宝は第4層以上からの出土となる。これは層位で正確に把握されており、流通銭に模鑄銭が多かったと判断できる。

○静岡県中原遺跡(尾形禮正「関東・東海地方」『考古学ジャーナル187』1981、16ページ)

開元通宝を上限に寛永通宝1枚を含む46種723枚中、143枚の永楽通宝のうち80%が日本鑄、62点の洪武通宝は70%が後鑄、その他の約北宋銭の半数が後鑄か鑄写し、または改造ビタ銭であった。

○世高通宝を最新銭とする岐阜県大和町の大間見友久出土銭(総数10766枚)には模鑄銭が約0.9%しか含まれていない。このことから、地域差が大きいといわざるを得ない。

寛永元年八月

新銭鑄造奉行出立
本銭ヲ渡ス

一、新銭鑄申奉行^(新世)・清兵衛^(新世)兩人共之今日参由^(新世)て、登城仕^(新世)之付、本銭、又銭屋書物共被渡、口上之儀とも具之被申渡^(新世)事、

寛永元年十月

新銭鑄造

十二月朔日ヨリ通

一、新銭出来次第、銭遣之可被仰付哉と、御奉行衆^(新世)ヲ談合^(新世)之、御詮之上^(新世)之^(新世)間、不及談合、銭出来次第遣^(新世)之様之可被申付^(新世)之由、然ら^(新世)ハ、十二月朔日^(新世)ヲ遣^(新世)之様之可申付^(新世)之由^(新世)事、

寛永元年十一月

新鑄銭百五十貫成

廿七日

一、^(新世)香春^(新世)ノ新銭百五十貫出来申由^(新世)之て、出シ申^(新世)事、

廿八日

一、香春^(新世)ノ昨日参^(新世)ハ新銭、本ノ銭より悪敷^(新世)之付、返シ申^(新世)ハ、則本銭六文渡^(新世)込清兵衛^(新世)之渡^(新世)事、

寛永四年二月

新銭見本ヨリ悪キ
故返ス

一、^(新世)森伊勢^(新世)守様^(新世)ヲ御使参^(新世)ハ、但、御かち^(新世)ノもの也、此御使^(新世)之新銭貳貫文被遣^(新世)ハ、但、京銭貳貫文可遣^(新世)之旨被^(新世) 仰出^(新世)ハ共、京銭無^(新世)之ハ、新銭貳貫文遣^(新世)ハ也、

毛利高政使者ハ歩
ノ者
京銭一貫文ナク新
銭二貫文ヲ給ス

寛永五年六月

廿六日

一、御小^(新世)ニ性衆^(新世)ヲ、ため池^(新世)のあたこ^(新世)へ奉加^(新世)之新銭拾貫文、殿様^(新世)ヲ被遣^(新世)ハ、皆川治^(新世)ア奉^(新世)之^(新世)由^(新世)付、則治^(新世)ア之相渡^(新世)事、

愛宕権現へ新銭奉
加

寛永五年七月

飛脚へ給与ノタメ
ノ京銭二十貫文ヲ
積下ル

一、御船頭上田十三郎舟^(新世)之、京銭貳拾貫文つミ下申^(新世)ハ、方^(新世)ヲ御飛脚^(新世)之可被遣^(新世)ため也、

寛永六年二月

十五日

毛利宗就へノ飛脚
京銭ヲ給与サル

一、^(新世)松平長門様^(新世)へ御飛脚^(新世)之被遣^(新世)ハ御鉄炮衆、寺木八左衛門尉^(新世)与有永少九郎^(新世)・国友半右衛門^(新世)与野上市太夫^(新世)、兩人さき^(新世)ム^(新世)て、京銭壹貫文宛被下^(新世)ハ由申^(新世)事、則別^(新世)之写^(新世)也、

飛脚へ京銭ノ給与

一、江戸^(新世)ノ中津^(新世)へ被進^(新世)之御飛脚^(新世)貳人^(新世)之、京銭壹貫文つミ被遣^(新世)事、

寛永六年閏二月

銀子六百目分^(新世)香春
ノ銅^(新世)ヲ錢ノ下地^(新世)ニ
鑄ル
新銭二百貫文鑄造
ノ差引
二百目ノ利徳

一、釘本半左衛門登城^(新世)ヨて被申^(新世)ハ、^(新世)香春^(新世)之御座^(新世)ハ銅^(新世)ヲ、錢下地^(新世)之銀子六百目分鑄置^(新世)申^(新世)ハ、其ま^(新世)ノ置申^(新世)ハ、何之御用^(新世)之も立不申^(新世)ハ、今銀子貳百目被遣^(新世)ハ、新銭之鑄立^(新世)可申^(新世)と申^(新世)ハ、錢之仕^(新世)ハ、式百貫文御座^(新世)ハ、左様^(新世)之ハ、元銀^(新世)之八百め引、式百めノ御とく参^(新世)ハ、如何可被仰付

寛永六年五月

七日

京銭ノ賞与

一、益永大兵衛、中津^(新世)ヨて、京銭一貫文被下^(新世)ハ由、被申^(新世)事、

十九日

中野某へノ賞銀當
所新銭千貫文弱^(新世)ヲ
七貫目ニ渡ス
ソノ理由

一、中野長兵衛^(新世)之御銀貳拾貫目^(新世)カシ被遣^(新世)内^(新世)之、後ノ新銭千貫文^(新世)之内有^(新世)之を、直段^(新世)を七貫目^(新世)ニして請取^(新世)可申^(新世)由申^(新世)ハ、さやう^(新世)ノ直段^(新世)をさけ^(新世)ハ儀如何^(新世)之ハ共、不入物^(新世)を御蔵^(新世)之置^(新世)ハ、御銀^(新世)之成申^(新世)事^(新世)之無^(新世)之^(新世)間、其分^(新世)之仕遣^(新世)シ可申^(新世)由、伝介^(新世)・甚丞相談^(新世)之て遣^(新世)ハ也、

寛永七年正月

本阿弥光益飛脚ニ
京銭ヲ給ス

一、本阿弥光益^(新世)ノ之飛脚^(新世)之、京銭貳貫文被遣^(新世)ハ也

第1表 全国主要64例埋蔵銭一覧(1) 最新銭による区分

2000. 11. 10作成

期	No.	遺跡略名 / 所在地	埋蔵枚数	調査枚数	最古銭	最新銭	模鑄	容器	模鑄銭 (%)	島銭	線刻	打刻
1期	1	草戸千軒町35次 (広島県福山市)	12,591	12,591	八銖半兩	淳祐元寶	☆	大甕				
	2	屈巢舟塚 (埼玉県川里村)	○	29,623	貨泉	咸淳元寶		甕				
	3	城 (福岡県北九州市)	×	15,745	四銖半兩	咸淳元寶	☆	甕				
	4	上千葉 (東京都葛飾区)	×	14,010	開元通寶	咸淳元寶	★	甕	515 (3.68%)	10	1	
	5	吉野 (大阪府能勢町)	1,213	1,213	五銖(後漢)	咸淳元寶		甕				
2期	6	大里 (徳島県海南町)	○	70,088	貨泉	至大通寶	★	大甕	326 (0.47%)	21		
	7	中村岡の久保 (愛媛県新居浜市)	○	62,028	四銖半兩	至大通寶	★	大甕	41 (0.07%)	30		
				(62,649)								
	8	塩野 (兵庫県安富町)	○	50,827	四銖半兩	至大通寶	★	大甕	162 (0.32%)	34		
				(50,856)								
	9	鞍馬二ノ瀬町 (京都市左京区)	○	38,362	八銖半兩	至大通寶	★	曲物	235 (0.61%)	23		1
	10	大原大明神 (岩手県大東町)	×	37,722	四銖半兩	至大通寶	★	丸太半割		12		1
	11	平安京左京8-3-7 (京都府京都市)	31,415	31,415	五銖(後漢)	至大通寶		曲物		1		
	12	引土 (京都府舞鶴市)	○	11,943	五銖(後漢)	至大通寶	★	曲物	126 (1.06%)			
	13	斎宮跡54次 (三重県明和町)	11,576	11,576	四銖半兩	至大通寶	★	布袋		3	1	
	14	下道 (新潟県長岡市)	11,212	11,212	五銖(後漢)	至大通寶		曲物				
	15	御前浜 (宮城県女川町)	×	10,572	貨泉	至大通寶	★	不明		3		
	16	南台 (兵庫県三田市)	6,384	6,384	五銖(後漢)	至大通寶	☆	甕		1		
	17	吉田若宮2次 (長野県塩尻市)	×	5,820	開元通寶	至大通寶	★	木製品	151 (2.60%)	5		
	18	小原 (長野県松本市)	2,701	2,701	開元通寶	至大通寶		布袋		1		
19	元島 (静岡県福田町)	1,647	1,647	開元通寶	至大通寶	★	なし	4 (0.24%)				
20	大宰府83次 (福岡県太宰府市)	999	999	五銖(後漢)	至大通寶	☆	なし					
3期	21	吉田若宮1次 (長野県塩尻市)	74,740	74,740	八銖半兩	大中通寶	★	甕・桶?		13		
	22	志海苔 (北海道函館市)	○	374,436	四銖半兩	洪武通寶	★	甕3個				
	23	掛馬 (茨城県阿見町)	○	100,691	開元通寶	洪武通寶	★	大甕				
				(117,009)								
4期	24	社口田 (愛知県岡崎市)	○	26,532	四銖半兩	洪武通寶		甕				
	25	堂坂 (兵庫県宝塚市)	194,825	194,825	五銖(後漢)	永樂通寶		壺7個				
	26	能ヶ谷 (東京都町田市)	○	81,831	四銖半兩	永樂通寶	★	結桶		2	1	
				(約90,000)								
	27	多摩NT484 (東京都八王子市)	27,015	27,015	開元通寶	永樂通寶	★	袋		1		
	28	善福寺南 (広島県東広島市)	○	16,353	五銖(後漢)	永樂通寶	★	大甕				
				(約21,353)								
	29	山内 (大阪府能勢町)	約11,000	10,951	開元通寶	永樂通寶	☆	壺7個				
5期	30	浪岡城SP11 (青森県浪岡町)	5,971	5,971	開元通寶	永樂通寶		なし				
	31	根岸 (埼玉県深谷市)	4,851	4,851	開元通寶	永樂通寶		なし		1		
	32	四ッ枝 (静岡県菊川町)	4,133	4,133	開元通寶	永樂通寶	★	甕		1		
	33	石白1次 (新潟県湯沢町)	○	169,872	開元通寶	朝鮮通寶	★	木箱		5		
6期	34	石白2次 (新潟県湯沢町)	○	101,912	開元通寶	朝鮮通寶	★	木箱		1		
	35	北坂梨 (熊本県一の宮町)	14,976	14,976	開元通寶	朝鮮通寶	★	壺		1		
	36	黒木町 (福岡県黒木町)	○	9,775	開元通寶	朝鮮通寶	★	甕				
	37	白子 (埼玉県和光市)	114,368	93,768	貨泉	宣徳通寶	★	甕				
				(114,368)								
	38	石在町 (兵庫県西宮市)	19,803	19,803	開元通寶	宣徳通寶	★	木箱	643 (3.25%)			
	39	下右田 (山口県防府市)	13,495	13,495	開元通寶	宣徳通寶	★	壺				
7期	40	宮出 (三重県久居市)	○	12,619	開元通寶	宣徳通寶	★	壺				
	41	国分 (栃木県国分寺町)	○	12,441	開元通寶	宣徳通寶		壺		1		
	42	武生部 (石川県鹿島町)	○	11,008	開元通寶	宣徳通寶	★	甕		1		
	43	生子 (茨城県猿島町)	約16,000	10,847	貨泉	宣徳通寶		壺				
	44	泉生町 (茨城県龍ヶ崎町)	○	10,428	開元通寶	宣徳通寶		壺				
	45	宮尾 (島根県西郷町)	8,716	8,716	開元通寶	宣徳通寶		曲物				
	46	栃木 (熊本県長陽村)	○	7,870	開元通寶	宣徳通寶	★	壺				
	47	波根 (島根県大田市)	○	6,747	開元通寶	宣徳通寶		布袋				
	48	葛西城址83井戸 (東京都葛飾区)	4,771	4,718	開元通寶	宣徳通寶	★	井戸	34 (0.71%)	1		
	49	朝倉氏52次 (福井県福井市)	3,784	3,784	開元通寶	宣徳通寶	☆	なし				
8期	50	千野鳥居原 (山梨県塩山市)	×	9,370	開元通寶	大世通寶		なし				
	51	長生 (徳島県阿南市)	○	26,338	開元通寶	世高通寶		大甕		1		
	52	大見間友久 (岐阜県大和町)	×	10,766	開元通寶	世高通寶	★	なし	97 (0.90%)			
	53	下石原 (東京都調布市)	○	10,027	開元通寶	世高通寶		甕				
	54	大久保山ⅢA地区 (埼玉県本庄市)	8,949	8,949	開元通寶	世高通寶	★	なし	892 (9.98%)	2		
	55	福生19号 (東京都福生市)	×	5,076	開元通寶	世高通寶	★	なし				
9期	56	武蔵国府M47-SX13 (東京都府中市)	3,890	3,890	開元通寶	世高通寶		なし				
	57	大門 (静岡県森町)	○	70,609	開元通寶	弘治通寶	★	大甕		3		
	58	小重 (新潟県中郷村)	28,559	28,559	開元通寶	弘治通寶	★	曲物				
	59	岸田 (兵庫県山崎町)	約9,800	8,752	開元通寶	弘治通寶	☆	壺		1		
10期	60	新城 (青森県青森市)	×	7,019	開元通寶	弘治通寶	★	曲物	6,433 (91.65%)			
	61	平人館 (長崎県郷ノ浦町)	4,510	4,165	開元通寶	洪順通寶		壺				
				(4,510)								
	62	朝倉氏57次 (福井県福井市)	16,594	16,594	開元通寶	嘉靖通寶	★	井戸	340 (2.05%)			
	63	菊間 (千葉県市原市)	×	3,269	開元通寶	廣和通寶		なし				
	64	堺環濠都市SKT448-3 (大阪府堺市)	×	4,851	開元通寶	慶長通寶	★	木箱	3,932 (81.06%)			
				(6,325)								
	合計			2,079,820					179	3	2	

【備考】

- ①表中の「埋蔵枚数」は、実際の出土枚数(埋蔵されていた枚数)であり、「調査枚数」は分類調査された枚数である。出土銭の一部が銭塊や銭繕のまま現状保存されている場合、調査枚数は上段の数字であり、下段の()は現状保存を加えた枚数である。
- ②埋蔵枚数欄の○印は、出土銭のすべてが現存していないものの、収納容器の容積から本来の埋蔵枚数が推定可能なものであり、×印は推定不可能であることを示す。
- ③「模鑄」欄は日本鑄造の模鑄銭の有無をあらわしている。筆者の調査で模鑄銭の混在を確認したのは★印、認められないものは☆印、未確認のものは空欄とした。